

# 平成23年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立大宮西高等学校)

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育成して、自己実現を図る。
--------	----------------------------

重点目標	1 生徒が学力の向上と定着を実感できる学習指導の充実 2 心身ともに健康で始めある生活を送れる生徒の育成 3 生徒自ら進路を選択し、その実現に向けて努力する姿勢の確立 4 開かれた学校作りの推進 (情報発信の充実と活用)
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局 (教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月23日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 平成24年3月14日
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学習意欲と学習習慣を向上させるため、学習環境の整備、授業の改善、授業時間の確保に努める。また課題学習の充実を図り、予習復習の習慣を身に付けさせ家庭学習の定着を図る。また放課後の有意義な時間を活かし学習に取り組ませる。</li> <li>○生徒の進路を踏まえた新教育課程の編成に努める。</li> </ul>	学力の向上を目指し、授業改善や生徒の意識改革に努めるための学習指導の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業アンケートを実施し授業評価や授業研究を通して授業の工夫や改善を行う。</li> <li>○授業時間の確保、チャイム始業。</li> <li>○授業の活性化、内容の充実。</li> <li>○生徒の意識が高まり興味関心を持ち授業に積極的に取り組ませる。</li> <li>○補習やアドバイス等、個別指導の充実。</li> <li>○課題学習の充実、家庭学習の習慣化を目指した予習復習課題の充実を図る。</li> <li>○校内の整理整頓・落ち着いた学習環境づくり。</li> <li>○新教育課程の編成の目標を踏まえ、進路希望を実現できる教育課程の作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業に積極的に取り組む生徒は増加したか。</li> <li>○校内試験、校外模試の成績優良者は増加したか。</li> <li>○生徒のニーズに合わせた補習講座が開設されているか。</li> <li>○家庭学習の定着は図れたか。</li> <li>○校内美化が保たれているか。</li> <li>○国際理解教育を推進することができたか。</li> <li>○新教育課程の編成に向け、生徒の進路希望を実現できる教育課程となったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関を利用した学力到達度調査では中上位層が前年比約40%増加した(2年)。</li> <li>・家庭学習の定着を図る英語の週末課題を実施した(1年)。</li> <li>・定期考査前における早朝、放課後自習室を設定した(2年)。</li> <li>・一般受験向け進学補習講座を各教科目毎に設定し、熱心な進路補習を行った(3年)。</li> <li>・国際理解教育としてフロリダ派遣(25名)及び韓国派遣(7名)を実施するとともに、各国高校生の訪問受け入れを行った。</li> <li>・2年次より文系理系を明確に分けた平成25年度新教育課程を完成させた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上に向けては各教科の学力の底上げが必要である。</li> <li>・外部機関と連携した本校生の学習力分析会の強化。</li> <li>・学力上位層を伸ばす学習環境づくり。</li> <li>・帰宅後の時間を工夫した家庭学習時間の確保。</li> <li>・教科主任連絡会等を利用した指導方針の共有化。</li> <li>・国際理解教育を推進する組織の整備拡充。</li> <li>・新教育課程の運用面の工夫。</li> </ul>	学校関係者からの意見・要望・評価等
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間性の豊かな生徒づくりに向け、学校と家庭との指導目的や指導基準の共有化を強化することが必要である。</li> <li>○登下校の交通安全、自転車のマナー指導や事故防止に努める。</li> <li>○基本的生活習慣の確立、教育相談等に取り組み、社会で活躍のできる生徒を数多く育成する必要がある。</li> </ul>	豊かな人間関係づくりと基本的生活習慣の確立をめざす生徒指導の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣の確立。</li> <li>・時間や規則を守らせる。</li> <li>・服装・頭髪指導、遅刻指導の充実。</li> <li>・自転車のマナーアップ、点検。</li> <li>・三橋 (3) 交差点指導の充実。</li> <li>○心身ともに健康な生徒育成。</li> <li>・教育相談(スクールカウンセラーによる)の充実。</li> <li>・個別指導の充実、面談等の実施。</li> <li>・家庭、関係機関等との連携を図る。</li> <li>○豊かな人間関係の育成。</li> <li>・学校行事への積極的な参加。</li> <li>・学年行事の充実。</li> <li>・道徳教育の推進。</li> <li>・部活動の活性化。</li> <li>・国際理解教育の推進。</li> <li>○特別支援教育の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○服装、頭髪指導の効果は上がったか。</li> <li>○遅刻者数は減少したか。</li> <li>○自転車交通事故防止をはじめとする交通安全への意識は向上したか。</li> <li>○部活動や学校行事の活性化は図れたか。</li> <li>○特別支援教育委員会の情報を有効活用したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の雰囲気が落ちているため、生徒の問題行動はほとんど発生しなかった。</li> <li>・生徒玄関における整容指導を生徒指導部と学年団の連携により行った。</li> <li>・継続した遅刻指導により、例年に比べ遅刻者は減少した。</li> <li>・LHRを利用した交通安全教育を実施し、交通マナーについての再度の意識付けを行った。</li> <li>・課題を抱えた生徒に対しては、スクールカウンセラーからの助言と特別支援教育委員会で検討した内容を職員間で共有し合い、生徒指導にあたった。</li> <li>・50周年記念行事の一環として合唱コンクール、スピーチコンテストが行われ、生徒の積極的な参加が見られた。また、部活動ではバレー等への出場を果たした(フットニス、新聞)。</li> <li>・LHR等を利用した年5回の「在り方生き方教育」始動させた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣と態度を育成する粘り強い生徒指導を今後とも継続する必要がある。</li> <li>・登下校時の自転車交通事故を根絶するための安全意識の醸成。</li> <li>・生徒の登下校に着用するコート等の保管場所の検討。</li> <li>・社会常識を育む講話やガイダンスの計画的配置により地域・保護者の信頼に応えられる生徒の育成。</li> <li>・スクールカウンセラーへの早期かつ積極的な相談。</li> <li>・生徒のメンタルヘルスを対象にした指導の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の遅刻防止に向けた指導を継続的に実施した結果、一定の成果が上がったと思います。</li> <li>・落ち着いたあるよい教育環境をつくっています。生徒の個別の問題に対してもケースごとに丁寧に対応しています。引き続き生徒一人一人の課題を解決する指導姿勢と態勢を大切にするとよいと思います。</li> <li>・自転車のマナーアップについては、生徒一人一人の自覚が大切です。保護者、地域からの支援を活かした交通安全指導を今後とも継続してほしいと思います。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学時より多くの生徒が進学を目指し、計画的に取り組んでいる。しかし一部に具体的に取組むことが遅れ、実力を発揮できないままの生徒がいる。そのため早い段階からのきめ細かい進路指導を繰り返す必要がある。</li> </ul>	生徒一人一人の進路実現に向けた進路指導の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導に伴う個人面談。</li> <li>○ガイダンス機能の充実。</li> <li>○卒業生からの進路アドバイス。</li> <li>○進路の手引きや各種進路資料を整備し、進路情報の提供を図る。</li> <li>○職員の大学・短大説明会への参加。</li> <li>○実力テストの実施を通して進路指導の充実。</li> <li>○土曜補習講座を通しての進学指導。</li> <li>○生徒の大学・短大見学の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面談等を通し生徒への進路意識を図れたか。</li> <li>○進路情報の提供が適切に行われているか。</li> <li>○学年と進路指導部との連携が十分図れたか。</li> <li>○土曜補習講座(進学セミナー)への参加で生徒の受験意識が高まったか。</li> <li>○生徒の進路希望に添った補習講座が平日行われているか。</li> <li>○進路希望を実現させた生徒は増加したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個別面談は年3回以上実施し、生徒個々に応じた進路指導を行った。</li> <li>・休業日を利用した原則全員受験による模擬試験や外部講師を招いた進学セミナーを積極的に実施し、生徒の進路選択意識を高めた。</li> <li>・進路指導部との連携のもと1年次のキャリア教育、2年次のオープンキャンパス参加と進路志望の早期決定指導、3年次の分野別ガイダンス等を行った。</li> <li>・国立大学への複数名の合格とともに、私大一般受験でも上位、中堅校で合格実績が上昇した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の進路希望を実現させる進路指導を今後も継続する。</li> <li>・外部模擬試験の有効利用(事前・事後指導の充実)。</li> <li>・土曜進学セミナー参加者の増加。</li> <li>・AO入試や推薦入試に適切に対応するための教職員間の情報の共有化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々進学実績が向上しています。外部機関と連携した進学指導を積極的に実施した成果です。</li> <li>・3年間を通じた進路指導の取り組みが実を結んでいることを高く評価します。</li> <li>・多くの進路情報の提供や、生徒個別面談の複数回実施は生徒自身が進路選択を考える上で効果的です。1年生からの生徒一人一人への懇切丁寧な進路指導を今後も継続してほしいと思います。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA、地域等の連携を密にする取組、HPの更新やメール送信による連絡など順調に進歩している。さらに今年度も情報通信機器を用いた学校からの情報提供や収集システムの充実にも熱心に努める。また創立50周年記念事業の円滑な推進に向け、生徒、保護者、職員、地域等の準備作業をまとめる。</li> </ul>	開かれた学校づくりの推進、情報の発信の充実と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公開授業の推進、充実 (保護者、中学校との連携を密にする)</li> <li>○PTA活動の充実。支援態勢づくりを図る。</li> <li>○HP等各種方法による中学校向け情報の提供。</li> <li>○HPの更新。</li> <li>○保護者へのメール情報の提供。(メール連絡網の活用と加入率のアップ)</li> <li>○創立50周年記念事業の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者への情報提供の充実は図れたか。</li> <li>○中学生、その保護者の体験入学、学校見学会への参加数は増加したか。</li> <li>○各学校行事への保護者の参加数は増加したか。</li> <li>○保護者や地域からの要望を活かす指導は行われたか。</li> <li>○50周年事業は成功したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新を日々行い、学校情報を詳細に提供した。</li> <li>・中学生、保護者向けに授業公開を行った。</li> <li>・メール連絡網の加入率は98%まで達した。</li> <li>・PTA、同窓会、地域の協力のもと50周年行事を盛大に執り行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な形での情報発信を通して生徒募集に努める。</li> <li>・組織間の連携を密にしたPTA活動。</li> <li>・体験入学や授業公開の工夫。</li> <li>・メール連絡網のエラー対応。</li> <li>・メール連絡網とHPを連携させた情報発信の研究開発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新、授業公開など開かれた学校づくりによく取り組んでいます。今後も機会をとらえ学校のPRを継続してください。</li> <li>・50周年事業は教職員、保護者、同窓会及び地域の連携により、すばらしい事業成果を残す式典となりました。</li> </ul>

